

2019 年度事業報告

I. 調査研究事業部門

2019 年度事業計画に基づき、嗜好品と人間・社会に関する社会科学領域の調査研究や「嗜好品文化研究会」との嗜好品に関する横断的なテーマについての共同研究、およびたばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報収集、論考の取り纏めに取り組んだ。また、学術の振興を目的に、嗜好品の人文・社会科学等の領域に関する研究助成事業や研究誌、財団機関誌等を通じた普及啓発事業を実施した。

1. 調査研究事業

当年度に実施した調査研究活動は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

これまでの心理学研究および社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する各領域の調査・研究を実施した。心理学研究においては、外部の研究協力者との共同研究を実施した。社会学研究においては外部の研究者を交えた研究会を一昨年度より継続して開催、2018 年度実施調査の一部成果の学会発表を実施、全成果の公表（書籍化）に向けた準備を行った。その他これまでの研究成果については、継続して学会発表や学会誌への論文投稿を実施した。また、調査結果については適時 TASC ウェブサイトにおいて発表した。

(2) 嗜好品文化研究

「嗜好品文化研究会」と共同でフォーラムを開催、また「嗜好品とビジネス」をテーマに研究会を行うとともに、大学院生に対する研究助成を行った。

(3) たばこ史・たばこ産業史研究

研究助成等を通じて関係を構築した大学等研究機関の研究者や在野の研究者と連携を図り、たばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報を収集し、論考の取り纏めを行った。

(4) 研究関連情報の整備

調査・研究事業への効果的な活用を図るため、TASC 所蔵の書籍や研究報告書等諸情報の継続的な資料整備を行った。

2. 研究助成事業

2019 年度採択の研究に対する助成及び平成 30 年度助成研究の報告会を実施した。平成 30 年度研究助成の成果は、助成研究報告書を作成し国会図書館に納本するとともに、要約と全編を TASC ウェブサイトに掲載した。また、2020 年度分の応募研究について、

審査・採択を実施した。

3. 普及啓発事業

当年度に実施した普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

- ① 研究誌「談」115号～117号を発行した。
- ② 機関誌「TASC MONTHLY」520号(4月号)～531号(3月号)を発行した。
- ③ 研究誌「たばこ史研究」148号～150号を発行した。
- ④ 「2018年度事業概要」を発行した。

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

調査結果や助成研究の成果、定期出版物等の情報を適時掲載し、発信情報の充実を図った。

4. 受託調査研究事業

現代社会の諸問題等に関する講演会を企画・実施した。

II. 博物館事業部門

今年度の入館者数は 67,004 人（対前年度 89%）となり、リニューアルオープン後 5 年間で約 34 万人のお客様を迎えることができた。2020 年 2 月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館等により、入館者数および閲覧室やミュージアムショップの利用は前年に比べて減少したものの、開催した特別展はいずれも来館者より好意的な評価をいただいた。

今年度は、安定かつ充実した博物館運営と情報発信力の維持を最優先として、下記のとおり取り組んだ。

1. 安定かつ充実した博物館運営

- (1) これまで蓄積した各種知見を踏まえ、業務・運営面での課題等への対応を適時に行い、質の高い入館者サービスの維持に努めた。
- (2) 7 月 9～12 日をメンテナンス臨時休館とし、館内設備の点検ならびに補修等を実施した。
- (3) 前年度まで導入済の常設展示室音声ガイド(日本語・英語・中国語・韓国語)に続き、今年度はスペイン語を導入した。
- (4) 新型コロナウイルス感染拡大に対しては、従業員および来館者の安全を第一に、下記対応を実施した。
 - ・従業員マスク着用、博物館各所にアルコール消毒液設置等感染防止措置を徹底（1 月末～）
 - ・特別展「隅田川に育まれた文化 浮世絵に見る名所と美人」関連イベントを全て中止。
 - ・博物館開館時間を短縮（11 時～17 時間）（2 月末～）
 - ・3 月 5 日より臨時休館（うち 3 月 25～27 日は時間短縮のうえ開館）とし、その間従業員は原則在宅勤務。
 - ・開催直後に休止した特別展「隅田川に育まれた文化 浮世絵に見る名所と美人」について、各種ネットサイトおよびツイッターを通じてお客様に展示風景、展示作品等を紹介。

2. 調査研究活動

2020 年度以降の展示企画に向けたテーマおよび下記の領域・分野を中心に、「たばこと塩の歴史と文化」および収蔵資料に関する調査研究を着実に推進した。

たばこ文化の発生と伝播、江戸時代の文化とたばこ、近現代のたばこ文化・産業史、塩の文化・サイエンス、産業・企業系博物館論についての調査研究

3. 情報発信力の維持

- (1) 情報発信活動
 - ① 特別展の開催等

「夏休み塩の学習室」を含め年間5回の特別展および展示関連講演会・イベント等を開催し、質の高い情報発信に努めた。

② イベント・講座

たばしお講座（1回）、および古文書・古文書を読む会（9回）、などを開催した。

③ 刊行物

・展示図録

「館蔵ミニチュア展 小さなものの大きな魅力」

・「所蔵品図録 ミニチュア 増補改訂版」

④ 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

・常設展示の展示替

江戸時代のたばこ文化コーナーは7回、コレクションギャラリーは4回実施した。

・視聴覚ホール

特別展に関連して講演会を7回、特別映画上映会を2回実施した。

・図書閲覧室

特別展に合わせ開架図書を変える等来館者サービスの向上に努めた。

(2) 収蔵資料等のデータベース化と活用

収蔵資料等のデータベース化を進め、来館者へのサービス向上を図った。

(3) 周知広報・PR

① 所在地周知PR・アクセス案内

HP、メトロ最寄り駅駅貼りポスター、メトロ総合出口案内板、電柱広告、消火栓標識広告等を通じ案内を行った。

② 特別展・イベント等の周知

HP、ツイッター、リリース配信、新聞およびインターネット、交通広告、ダイレクトメール、位置情報連動型広告（ITENE）、プレス内覧会実施等、多様なメディア、手段を通じて事前周知を行った。

③ JTと連携したWeb（HP）活用

設置企業の日本たばこ産業株式会社と連携のうえWeb（HP）の更新等を行うとともに、「特別展ページ」簡略化およびWebサイト更新体制の見直し検討を実施した。

④ SNSを通じた情報発信

Web（HP）に加え2019年12月よりツイッターを通じた特別展や臨時休館等の情報発信を開始した。

⑤ 他館等と連携したPR

東京の美術館・博物館等95施設の共通入館券「ぐるっとパス2019」に加入した。

4. 地域社会との良好な関係維持

「すみだファクトリーめぐり」（スミファ実行委員会主催 墨田区共催）に協力し墨田区等

との良好な関係維持に努めるとともに、「すみだ5館 秋のスタンプラリー2019」、「すみだ5館 スタンプラリー2020」（すみだ企業博物館連携協議会主催）への参加等を通じ、地域社会、近隣博物館との交流を実施した。

5. 資料収集・整理・保存

(1) 史・資料保管体制の確立

収蔵資料の整理を順次進めるとともに、収蔵庫をはじめ館内の定期的な環境モニタリングおよびIPM（総合的有害生物管理）の確立を進めた。

(2) 寄贈資料への対応

寄贈資料については、資料検討委員会で評価を行い、138件の資料を収集・登録するとともに、寄贈者への適切なリファレンスを実施した。

(3) 資料購入

5点を購入した。

(4) ポスターの実物資料収集等

新製品のポスター、パッケージ等の資料は、継続して収集した。

6. その他の活動

(1) 職員の教育・研修

関連団体・学会等による研究会・研修会などへ積極的に参加した。

(2) 復旧支援活動への参加

公益財団法人日本博物館協会より要請のあった「被災博物館及び文化財の復旧支援事業」に延べ8名が参加し、台風19号による被災館の復旧作業に協力した。

(3) ミュージアムショップ

オリジナル商品の製作・販売のほか、展覧会毎に関連商品の販売を行い、好評を得た。

(4) 博物館実習受入

6大学6名を受け入れた。